

アユのグルギア症
—魚類の微胞子虫症の防除に関して—

高 橋 晋

魚病研究 13 (1) (1978)

魚類の微胞子虫症の防除に関して、寄生体の生活史、その感染経路、化学療法、免疫、その他の治療法の可能性について論議した。

1. Glugea takedai, G. plecoglossi, G. stephani の生活史（増員増殖と孢子形成）の進行は、完全な温度依存であるので、水温制御による発症阻止が可能である。
2. 人為感染法によれば、経口ならびに経皮の両感染経路が認められる。
3. G. plecoglossiの孢子は、乾燥、凍結、温湯、紫外線、界面活性剤、塩素剤などによって殺滅されるので、池や器具の消毒、罹病魚の処分等に應用出来る。
4. fumagillinの投与は、G. plecoglossiおよびPlistophora anguillarumによる微胞子虫症に対し、著効を現わす。しかし、その投与時期や投与量は、微胞子虫の種によって異なる。
5. G. takedai に軽く感染したニジマスは、その後の感染が防止されることから、免疫の獲得が考えられる。